

令和6年度 学校評価

前年度の 重点目標	「あたたかい学校づくり」～自己実現を支える～ ○ お互いを尊重する高い人権意識をもった児童生徒と教職員による、健康で安全・安心な学校づくりを進める。 ○ 個々の特性の丁寧な把握と、社会で幸せに生きるための力を育む、個別最適で協働的な学びを促進する。 ○ 教職員が仲間と新しいことに挑戦でき、やりがいを感じて仕事ができる職場環境と、連携や協働による人材育成や業務のスリム化を図る。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	・児童一人一人の興味関心に応じたさまざまな教育活動や教育環境づくりに取り組む。	・「学習の個性化」の観点から授業実践や授業改善を図る。 ・児童が安全に安心して活動できる学習環境や教室環境を学年会等で検討する。 ・児童の支援及び指導の方法を検討するための個別のケース会を設定する。	・児童の実態把握を基にした教材・教具の工夫や授業改善を行い、学習の個性化を意識した授業を実践することができた。今後も、常に授業改善ができる土壌を醸成していく必要がある。 ・各教室内で学年会を開催し、適切な学習環境について話し合うことができた。 ・個別に支援が必要なケースについて、学年会にとどまらず外部支援機関と合同の支援会議やケース会議を設定できた。
中学部	・教職員が協働し、生徒一人一人の最適な学びにつながる教育活動を推進する。	・人権が尊重された環境をつくることで、誰もが自尊心や安心感をもって活躍できるようにする。 ・生徒個々の目標を常に意識し、複数の目で評価をする。 ・教職員の円滑な協働のために、業務の効率化を図る。	・職員間で、生徒の人権尊重に配慮した言葉掛けや指導ができていたかを意識して指導に当たることができた。 ・教室に掲示した生徒の個々の目標を目にして振り返る機会をもつことができた。さらにより多くの目で評価できる機会が増えるといふ。 ・分担が明確な業務については個々の工夫や改善が見られた。さらに複数の教職員での協働を促進できるといふ。
高等部	・一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行い、社会的、職業的自立に向けて必要となる能力や態度、さらには生きる力の育成を目指す。	・生徒同士や教職員との関わりの中で、挨拶及び場面に応じた態度、実態に応じた話し方などコミュニケーション能力の向上を図る。 ・日頃の授業や各種行事、生徒会活動等において、生徒の個性や人権を尊重する。また、活動に主体的・意欲的に取り組み、達成感を味わい、自己有用感を感じられるようにする。 ・産業現場等における実習、就労体験実習、校内実習、作業学習、商業科専門科目などの職業教育の充実を図る。	・場面に応じた態度、話し方など、コミュニケーション能力について向上がみられた。学年間を越えた授業の拡大が今後の課題。 ・日常の授業や行事の様々な場面で、生徒自身が主体的に取り組み、達成感を味わい、次の活動にも意欲的に取り組める、という経験を重ねることができた。 ・実習や授業を通して、働くことに対するイメージをもつことができた。卒業学年は就労に向けて準備を進め、課題を明確にすることができた。
訪問教育	・児童生徒の実態や家庭の状況を丁寧に把握し、共通理解を図る。 ・授業内容や教材・教具の活用の幅を広げ、個々に合わせた授業作りを目指す。	・訪問教育会議で児童生徒の情報交換を丁寧に行っていく。 ・校内及び外部機関との連携を密に取りながら進めていく。 ・授業の様子を教職員間で共有し、反映できるようにする。 ・授業内容や教材を紹介し合う機会を定期的に設け情報交換をする	・訪問会議、支援会議を通して児童生徒の様子や家庭の様子を共通理解することができた。 ・進路の情報提供や進路懇談、外部機関とのケース会を進路指導部と協力して実施することができた。今後も必要に応じて実施していきたい。 ・授業担当で授業の様子を共有することで次の授業に活かして取り組むことができた。 ・教材・教具や授業で工夫していることを紹介し合う時間を設けることができた。今後も定期的の実施し、授業で困っていることを相談したり、授業のヒントを見つけたりして授業に活かしていけるといふ。

総務部	・児童生徒の学習活動が向上するように環境を整える。 ・PTA活動の効率的かつ円滑な運用を図る。	・教室の備品・消耗品の整備をする。 ・PTA役員と十分にコミュニケーションをとり、役員のニーズを把握するように努める。	・備品・消耗品の保管場所や状態の確認を行い、管理体制を整えることができた。引き続き、備品の確認・修繕・買い替えなどを適切に行い、学習環境を整えていく。また、備品管理を効率的かつ確実にを行うための方法を検討し改善していきたい。 ・新しいPTA活動に向け、広く意見を収集するために、PTA会員全員を対象としたアンケートを実施した。今後もPTA役員や管理職と連携をとりながら、新しい組織、活動計画、規約について整えていきたい。
教務部	・教材・教具について情報を整理し、活用しやすい環境を整える。 ・各教科等を合わせた指導において、各教科の位置づけの明確化を図る。	・教材・教具について一覧表を作成するなどして、管理方法を整える。 ・予約方法、使用方法などについて、周知を図る。 ・研修部と連携を図り、部研究で各教科等を合わせた指導の年間指導計画の内容の確認、見直しに取り組む。	・教材が安全に使用できているのかを見直し、修理や廃棄、購入の手続きを進めた。職員が作成した教材・教具の保管やシェアしやすい管理方法に継続して取り組んでいく。 ・学習指導要領をふまえた各教科の目標設定を具体的に考え、話し合う機会が増えた。根拠に基づく学習指導を行えるよう、引き続き年間指導計画等の見直しを行う。
生徒指導部	・防災体制の整備と周知を行う。 ・スクールバスの安全で円滑な運行を行う。 ・分掌業務の精選を行う。	・防災マニュアルの内容や重要項目について教職員への周知を図る。 ・避難訓練等の実施と検証をする。 ・バスコースの時刻、運行経路が適切であるか調査し、検討及び修正する。 ・議題及び研修等の精選を行い、業務のスリム化を図る。	・研修を通して新転任者と希望者に防災マニュアルと、防災設備等を周知することができた。 ・反省で出た課題を反映し、より安全で素早い避難ができるようにしていきたい。 ・新規乗車開始の繰り上げ等、保護者のニーズに応えることができた。R9年度を想定しながら、バス業務に取り組む。 ・会議の削減やデータの整理等を引き続き行っていく。
進路指導部	・在宅就労の推進を図る。 ・進路指導に関わる情報提供の充実を図る。 ・進路先との連携を充実し、適切な進路開拓を行う。	・外部機関と連携したテレワークを取り入れた実習や遠隔授業を行う。 ・教職員や保護者に対して外部講師の講話を答関係者に対して適切な情報提供を行う。 ・事業所訪問によって卒業生の定着を図ると共に、関係機関との信頼関係を構築し、情報収集する共に生徒の進路選択につなげる。	・テレワーク実習を他校や企業と連携して行った。他の障害種の学校も参加し、自己理解をより深めることができた。テレワーク実習用の機器の整理を今後していきたい。 ・進路懇談や進路講話会、職員研修を通して、本校の進路指導や福祉施設の現状について保護者や職員へ情報提供を行った。今後はより、研修の機会を増やしていきたい。 ・事業所を定期的に訪問し、学校の現状を伝えたり、福祉業界の現状を聞いたりすることで情報収集を行った。
研修部	・特別支援教育の専門性や指導力が向上するように、校内における各研修や研究を整える。また、校外の研修を受けやすい環境を整える。 ・連携や協働による業務のスリム化を図る。	・初任者が指導力を付けられるように、初任者を指導する複数の教員で情報を共有し、研修内容や環境を整える。部研究では、教務部と連携をとって円滑に研究が行えるようにする。校内研修の充実を図ったり、校外研修の案内を積極的に発信したりして、各自が必要な研修を選択し、積極的に受講できるようにする。 ・各研修や各係の内容の精選、手順の整理を行う。	・初任者研修担当者会などを通して情報共有を図りながら、円滑に研修を進めることができた。校内研修に積極的に取り組んでもらうことができた。部研究では、教務部と連携を取りながら進めていくことで授業の目標や内容を確認しながら進めることができた。しかし、今年度から始めた内容であるので諸々の課題を来年度に生かしたい。 ・各係の仕事の分担や、グループウェアの活用、会議内容の精選を行い、業務のスリム化を図ることができた。来年度さらに工夫していきたい。

図書・視聴覚部	・児童生徒の学習活動を向上させ、豊かな心を育てる図書環境作りをする。 ・視聴覚機器の効果的な利用のための環境を整備する。	・配架や見出しの整備・工夫をする。 ・図書館まつり等の企画や日常の啓発活動の中で、本に親しむ機会を提供し図書の利用を促す。 ・視聴覚機器の管理と整備を行い、効果的な活用方法を提案するなどの環境作りを行う。	・新刊の本や季節の本などを見やすく、手に取りやすい位置に配架することで、児童・生徒が本を借りる機会を増やすことができた。 ・図書館まつりを開催することで、児童・生徒の来館数を増やすことができた。また企画では、児童・生徒が楽しんで参加することができた。 ・視聴覚機器の管理、整備では、故障した機器の対応を迅速に行うことで、日常の業務に支障がないようにすることができた。
保健部	・健康・安全面に対する教職員の意欲を高め、事故防止に努める。 ・学校給食を活用した食に関する指導を実践し、安全で安心な給食を提供する。	・ヒヤリハット事例を共通理解し、学年で具体的な対策(環境整備、支援方法等)を早急に検討する。 ・保健部で集約して、毎月部職員に報告し、事例と対策の共有をする。 ・各実態に合わせた食に関する指導を実践する。 ・毎月の給食アンケートを活用し、全体の意見を集約して、児童生徒の食べる機能に合わせた、より安全な給食を提供できるようにする。	・検討時に対策を話し合うと同時に、ヒヤリハットが起こる前に必要な安全規則の順守、危険発見活動等の見直しをすることで、基本活動の啓発につながるようにする。 ・ヒヤリハットの集約を行った。各学年にファイルへの記入やデータの入力をより周知徹底したい。 ・児童生徒が試食を喫食する際に立ち会って様子を見たり、「給食を考える会」の中で食形態についての検討を行ったりした。 ・集約したアンケートをもとに改善を行った。形状や固さについて、小学部低学年から高等部まで安全に食べることができるよう工夫したい。
自立活動部	・個別の指導計画の書式の改善を目指す。 ・安心安全な温水プール指導を実施する。	・個別の指導計画の書き方や考え方について研修や資料提供を行って共通理解を図り、学年会や部会で意見を収集する。 ・研修等で温水プール指導における基本的な留意点について全職員で確認する。 ・昨年度の反省を基に、他の分掌や校内全体で情報を共有したり保護者や外部専門家と連携を図ったりする。	・自立活動部で個別の指導計画を確認し、本校の状況を共有した。本校の書式に関する研修や資料提供を行い、分掌部会や学年会で協議を重ねて書式の改善ができた。新書式の考え方や認識を共有することが課題である。 ・全校研修と実技研修を行った。小グループで細やかな実技研修を実施して基本的な内容を共有できた。 ・各学年や分掌で個別の配慮事項等を確認して安全に実施できた。部によって教室の指導体制等の課題があることが明らかになった。今年度の反省を受けて、よりよい指導体制の検討が課題である。
教育情報部	・教員用パソコンの更新と、校務系ネットワークのクラウド化を円滑に進める。	・新システムの利用方法を全職員に分かりやすく説明する。 ・教育系ネットワークと校務系ネットワークにあるファイルサーバの住み分けを検討して、データを整理する。	・旧教員用パソコンの回収では、教育情報部で協力して回収日時を複数設定することで、全ての端末を円滑に回収することができた。システムの更改についても旧端末を使うことでペーパーレスで行うことができた。 ・システムの更改に伴い、セキュリティポリシーが変更されるため、ファイルサーバの住み分けを根本的に見直す必要が出てきた。
教育支援部	・関係機関との関わりや相談に関する体制の強化を図り、円滑で有意義な地域支援活動を進める。	・居住地校交流の進め方を図式化し、必要な書類を整えることで、円滑な実施を目指す。 ・関係機関との連携を促し、児童生徒の指導に生かす。 ・支援の方法や技術について、考える機会を設け、指導力の向上を図る。	・次年度に向けて居住地校交流の流れや、書類をまとめたものを交流希望の担任に渡せるように進めた。 ・療育センターとの巡回相談、ケース会や訓練見学の積極的な活用を行うためには、実施時期の検討を行う必要を感じた。 ・相談用紙を配布し気づいたこと、質問を分掌内で話してもらう機会を設けたが、現状の会議回数、時間内で多くの相談の事例を扱うことは難しく、事前に資料に目を通してもらう工夫が必要だった。
総合評価	授業に関するアンケート評価では、「個別の指導計画の十分な説明」「適切な指導内容や手立て」「意欲や関心を引き出す授業」「分かりやすく、学習内容が身に付く授業」「障害に応じた専門的な指導」の各項目において、ほとんどの方から「よくあてはまる」と「ほぼあてはまる」という回答をいただきました。これは、タブレットを使ったり、タブレットとテレビを連動させたりするなど、ICTを活用した授業方法が定着してきたことが要因の一つではないかと考えられる。 また、「人権に配慮された授業」という項目については、9割以上の保護者から「配慮されている」という評価を受けているが、引き続き、安全・安心な学校づくりの基盤として、人権意識を大切にしていける。 学校関係者委員会では、卒業後の進路先との丁寧な引継ぎや、授業見学において工夫された授業や児童生徒が楽しく授業に参加している様子など、評価をいただいた。		